

が茎葉によく付着するために展着剤を加用する。

2-20 表 桑園における主要な除草剤（農林蚕試より）

薬 剤 名	適 用 雑 草	処 理 方 法	剤 型	処 理 量 (10a)
D C P A	イネ科広葉	茎 葉	乳 剤	500ml
D C P A・N A C	イネ科広葉	茎 葉	乳 剤	1,500ml
ア シ ュ ラ ム	イネ科タテ科	土 壤	液 剤	750ml
ト リ フ ル ラ リ ン	イネ科広葉1年生	土 壤	乳 剤	300~400ml
ト リ フ ル ラ リ ン	イネ科広葉1年生	土 壤	粒 剤	4~6 kg
D C M U	イネ科広葉	土 壤	水 和 剤	100~150 g
D C M U・P C P	1年生イネ科広葉	土 壤	粒 剤	4~6 kg
リ ニ ュ ロ ン	1年生イネ科広葉	土 壤	水 和 剤	100~200 g
M C C	1年生イネ科広葉	土 壤	水 和 剤	1~1.2kg
M C C	1年生イネ科広葉	土 壤	粒 剤	4~5 kg
バ ー ナ レ ー ト	1年生イネ科広葉	土 壤	粒 剤	4~5 kg
D B N	1年生多年生広葉	土 壤	粒 剤	6~8 kg
パ ラ コ ー ト	1年生全般	茎 葉	液 剤	200~300ml
C A T	イネ科広葉1年生全般	土 壤	水 和 剤	150~300 g
C A T	イネ科広葉1年生全般	土 壤	粒 剤	7.5~10 kg
ア メ ト リ ン	イネ科広葉1年生全般	土 壤 茎 葉	乳 剤	500~750ml
ア メ ト リ ン	イネ科広葉1年生全般	土 壤 茎 葉	粒 剤	8~10 kg
プ ロ メ ト リ ン	イネ科広葉1年生全般	土 壤	水 和 剤	200~300 g
プ ロ メ ト リ ン・C A T	イネ科広葉1年生全般	土 壤	水 和 剤	200~300 g
D P A	イネ科有効	茎 葉	水 和 剤	1.5~1.7kg
塩 素 酸 塩	多年生の草本	茎 葉	水 和 剤	4.5~9 kg
塩 素 酸 塩	多年生の草本	茎 葉	粉 剤	5~9 kg
シ ア ン 酸 塩	草丈15cm以下1年生	土 壤 茎 葉	水 和 剤	1.5~4.5kg

土壌処理剤は、春発芽前及び夏切り後一度除草を行ってから散布する。水和剤・乳剤を用いる場合は、所定の薬量を10a当たりの必要薬液量に希釈してから使用する。粒剤は土壌が乾燥していると効果がおそいのでなるべく土の湿っている時に用いるとよい。

土壌茎葉処理剤の調整法は、さきに土壌処理剤を水に溶かしてから茎葉処理剤を添加し、混和した後に展着剤を加える。

第6節 桑の繁殖

第1. 桑の繁殖

桑の繁殖法には、有性繁殖法と無性繁殖法（栄養繁殖）とがあり、有性繁殖法には実播法（実生法）、無性繁殖法には接木・取木・代出・さし木などの方法がある。桑苗の増殖はほとんど無性繁殖によって行われ、有性繁殖の実播法は一般に接木の台木用として使用されている。ここでは、接木法・取木法・さし木法について述べる。

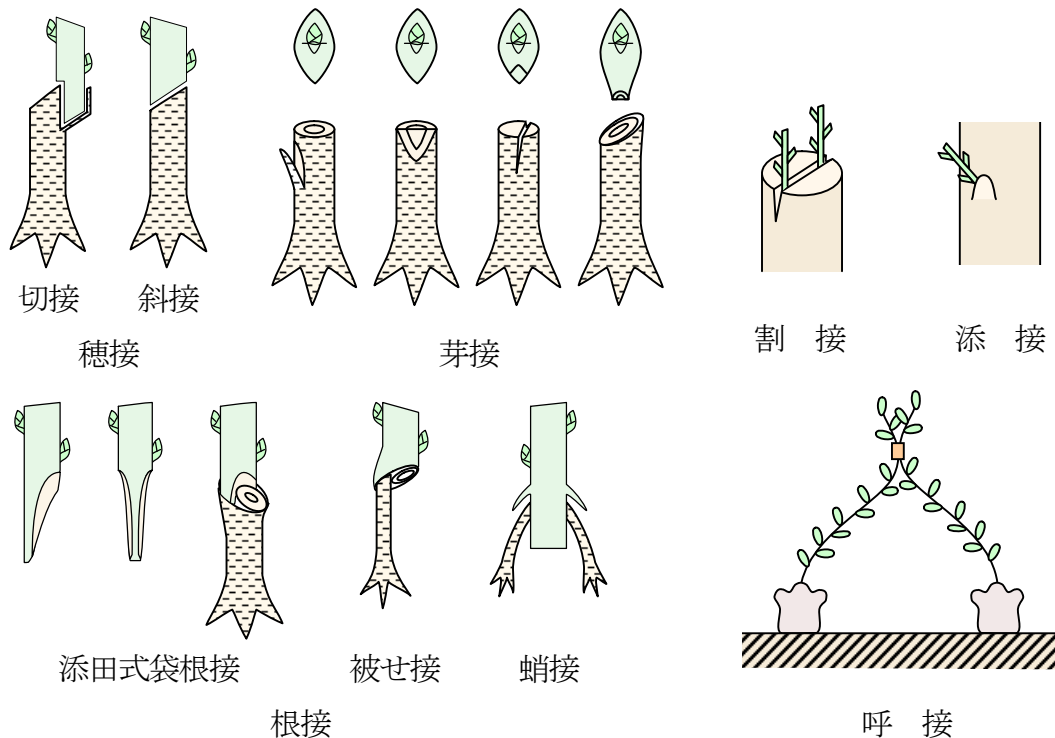
1. 接木法 接木法は芽あるいは芽をもっている枝条（接穂）と、根または根をもっている枝条（台木）相互の形成層を密着させて、癒合組織によって活着させる方法である。

接木は4月中旬に行う。接木が終わったら台木の根を剪定して仮植しておき、接穂の芽が発芽しは

じめたのを確認して苗床に定植して育てる。主な接木法の種類を示すと2-21表のようであるが、一般に多く用いられているのは、切接・袋接などである。

2-21 表 主な接木法の種類（南沢）

接木	揚接	穂接 = 切接・皮接・斜接
		芽接 = 楕伏芽接・環状芽接
据接		根接 = 袋接・被せ接・一芽根接・たこ接
		割接
		添接
		呼接



2-24 図 穂接・芽接・根接法（南沢）

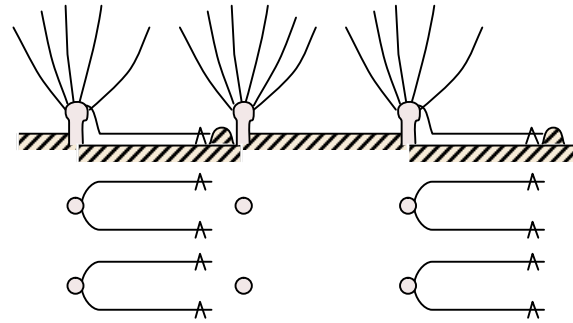
2-25 図 割接・添接・呼接法（南沢）

接木用の台木は、前年に育てておかなければならない。台木は実播法によって実生苗をつくるが、播種期には春播（4月）と夏播（6月）とがある。実生苗の掘取りは晩秋から3月にかけて行い仮植えしておく。穂木は品種固有の性状を正しくもつものを選ぶように心がけ、新梢が50~60cm伸長したところ、先端を約12cm切りつめて上半分の葉を摘む。このようにすると腋芽が発芽伸長するので、これを秋まで十分生長させて穂木とする。穂木の採取は2月下旬ごろがよい。

桑苗の生産 桑苗の生産は、一般に桑苗製造業者が行っており、そのほとんどが接木苗である。業者が育成した桑苗は蚕糸業法によって、都道府県知事の行う桑苗検査に合格したものでなければ販売できなかつたが、現在は蚕糸業法は廃止されている。検査は品種の特性を正しく保持し、病虫害におかされていないもので、苗の根回りの大小、根の発育状態などについて行われ、格付けされる。

2. 取木法 取木は枝条を曲げて土中に埋め、不定根を発生させ、それを切り離して苗木とするものである。

取木法には古条からとる撞木取^{しぼり}、改良撞木取、苗木横伏法などがあり、新梢を使用するものには盛取、傘取、曲取法などがある。枝条の埋め込みは、古条の場合は春発芽前に、新梢では春切後新梢が伸長してから行う。



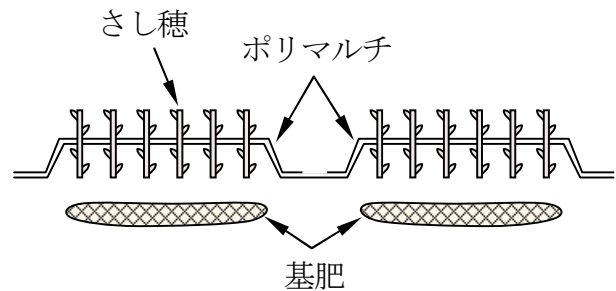
2-26 図 撞木取法 (浜田)

3. さし木法 さし木法は新根再生機能を利用するもので、切り取った枝条から苗をつくる方法である。さし木法は古条さし木・新梢さし木に大別され、さらに枝さし、芽さし、温床さし木、露地さし木、マルチングさし木法などがある。

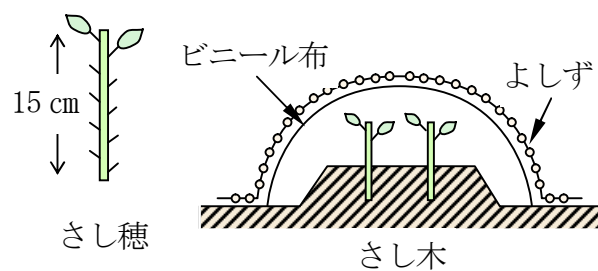
(1) 古条さし木法 古条さし木に用いるさし穂は、2月下旬ごろ前年生の枝条を基部から伐採し、0~5℃の場所に貯蔵しておく。さし込みの直前にそれを15cm ぐらいに切り分ける。

マルチングさし木法では、圃場にさし床をつくり床面にポリフィルムをかけ、これにさし穴をあけ、さし穂を土中に8~10cm の深さにさし込む。なお、さし木前にさし穂をNAA150ppm液に約24時間浸漬すると発根が促進される。

(2) 新梢さし木法 春新梢が30cm以上に伸長したとき、これを基部から切り取りさし穂とする。さし穂は先端に2葉を残して下の葉を摘除し、15cm ぐらいにそろえる。



2-27 図 マルチングさし木法 (南沢)



2-28 図 新梢さし木法 (南沢)

NAA10ppm に1~2%のしょ糖を加えた液に、さし穂の下端を約24時間浸漬しておき、さし込む直前によく水洗いする。さし込みの深さは5cm程度とする。さし込み後はさし床の上に、トンネル形にビニール布とよしずを被覆する。約1ヶ月後に腋芽が伸長しはじめたらビニールをとり、しばらくしてよしずも取り除く。

第7節 桑の病害虫と桑園の災害

第1. 桑の病気

桑の病気の種類は非常に多いが、実際に発生が多く桑栽培上防除しなければならない種類は、約40種類ぐらいであるといわれている。病原はかび(糸状菌)・細菌・ファイトプラズマ・ウイルスなどであって、ほとんどが伝染する。また病状は木全体または根・枝・葉などにあらわれる。桑の主な病気の種類と病原を示すと2-22表のようである。

2-22表 桑のおもな病気の種類と病原(農林蚕試より)

発病部位	病原	病名	発病部位	病原	病名
全身	ファイトプラズマ ウイルス	萎縮病	葉	糸状菌	裏うどんこ病
		モザイク病			表うどんこ病
根	糸状菌	桑紫紋羽病			よごれ葉病
		桑白紋羽病			すす病
		ならたけ病			褐斑病
根・株	糸状菌	白絹病			炭そ病
					枝
胴枯病	巻葉病				
芽枯病	葉枯病				
又枯病	環紋葉枯病				
枝枯菌核病	椹	糸状菌	肥大性菌核病		
こぶ病			縮小性菌核病		
新梢	糸状菌	褐色こうやく病	葉・新梢	細菌	縮葉細菌病
		灰色こうやく病	枝・幹	細菌	枝軟腐病
新梢	糸状菌	赤渋病			

これらの病気はほとんど全国的に分布しているが、発生する病気の種類・発生の多少・被害の程度は環境条件によって左右される。したがって、地域・地形及び気象環境などによって病気の発生に違いがある。また特定の地域のみによく発生するものもある。

桑の病気の予防には桑園の管理を適切に行い、特に収穫に当たっては桑の生理機能が低下しないように注意し、抵抗力を失わせないようにすることが大切である。病気が発生した場合は、早期に消毒など適切な処置をとる必要がある。桑の主な病気の防除法は付表IV